

大学院公開講座「いま高齢者問題を考える」



▲「日本人の死生観」を語る山折哲雄氏

大学院公開講座「いま高齢者問題を考える」が、10月7日から11月30日まで9回にわたり神田キャンパスで開かれ、1100人を超える幅広い年代層の参加者が聴講、大きな関心を呼んだ。

講座では8人の講師が高齢者の生活設計、諸制度の活用など老後の暮らし方を問題提起。最終回は山折哲雄国際日本文化センター所長が特別講演で、鎌倉期の歌人・西行や、詩人・宮沢賢治の生き方などを通して「日本人の死生観」を透察した。

参加者からは「切実な問題で毎回大変勉強になった」「生き抜いていく自信がついた」など多くの意見が寄せられ、講座終了後の12月9日には受講者の発案で約40人が集い「茶話会」が催された。

文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業(2004年度～2008年度)

専修大学「イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策への提言」

◆◆第1回シンポジウム◆◆

テーマ「グローバル経済とイノベーション都市の条件-川崎の可能性-」

日時：平成17年1月29日(土) 12時30分～16時30分

場所：川崎市産業振興会館4階

基調講演	寺島実郎	(株)三井物産戦略研究所長、(財)日本総合研究所理事長、本プロジェクト員
パネル・ディスカッション (パネリスト)	植松了	川崎市経済局長
	鶴田俊正	専修大学名誉教授、本プロジェクト員
	寺澤則忠	(財)日本経済研究所顧問、前・日本政策投資銀行副総裁
	山田長満	(株)ケイエスピー・代表取締役社長
(コーディネーター)	原田誠司	那須大学教授、川崎市産業振興財団副理事長、本プロジェクト員
	平尾光司	専修大学教授、本プロジェクト代表

◆◆第1回公開講座◆◆

2月2日(水) 18:00~21:00	専修大学(神田)7号館731教室 (定員:180名)	「アジアにおけるサイエンス・パークの展開」
2月3日(木) 14:30~17:30	専修大学(生田)9号館973教室 (定員:110名)	「地域の再生・振興と産業クラスター」
2月4日(金) 14:30~17:30	(株)ケイエスピー・ホール 曙の間 (定員:250名)	「欧米におけるイノベーション・クラスターの展開」

校友教員と校友会役員との懇談会

日高学長を激励

本学出身の教員と校友会役員との懇談会が12月1日(水)、午後6時30分から東京ジョンブル(丸の内ホテルアネックス)で約50人が出席して開催された。この会は毎年12月に開催されているが、今回は9月に日高義博教授が学長に就任したこともあり、激励を兼ねた会となった。

小林清校友会長が「校友会は新学長を盛り立てていく」とあいさつ。日高学長も本学の伝統を受け継いだパワフルなジェントルマンとハートフルなレディを育成したいとあいさつした。

出牛正芳理事長は生田キャンパスの整備事業や法学部の新学科計画を、泉武夫短大大学長は短大の学科再編計画をそれぞれ披露した。校友教員のスピーチ、校友会役員との意見交換など、和やかなうちに懇談は午後8時30分、池本卯典校友会副会長の新学長を励ます閉会の辞でお開きとなった。

柳 祐治ゼミ 開設20周年記念祝賀会

柳裕治ゼミナール(商学部・大学院)の卒業生・現役生で組織する「鳳裕会」総会と「ゼミナール開設20周年記念祝賀会」が11月27日、東京・赤坂プリンスホテルで約50人が出席して開かれた。同ゼミは会員数235人を数え、税理士・教員・公務員のほか、金融・流通・情報等の各業種で活躍する卒業生多数が総会(11月)と卒業を祝う会(3月)に出席している。

当日は総会で柳教授が「企業会計の国際化と税法」をテーマに講演し、2人のOB税理士(中川達彦氏・藤澤公貴氏)による講演と記念撮影等が行われた。祝賀会はゼミ長の狩家あゆみさん(商4)の司会で同会名誉会長である柳教授のあいさつ、会長の榎本恵一氏(1期生・税理士)の乾杯の発声で開宴し、和やかな雰囲気の中で近況報告が行われた。卒業生と現役生が触れ合うこの会は就職活動に直面した3年次生らが、先輩から仕事や会社の話を直接聞く絶好の機会にもなった。

校友会支部だより

静岡県支部連合総会

11月6日、静岡市の「クーポール会館」で。本部2人、会員53人が出席。松浦宏明氏(昭42経済)が司会。山崎俊治連合会長(昭33法)、小林校友会長があいさつ。会務を承認し、6月の全国支部長会で支部連合として表彰を受けたことが報告された。また、同支部長会で個人として表彰された故安井正前連合会長(昭16専計)のご子息に記念品が贈られた。

37会総会

11月18日、神田校舎で。本部2人、会員32人が出席。今福敬明氏(商経)が司会。尾崎光永会長(法)、河本雄三校友会総務部長があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

関西支部総会

11月18日、大阪市港区の「三井アーバンホテル大阪ペイタワー」で。本部1人、会員30人が出席。

喜多義典氏(平元経営)が司会。柳瀬悌二支部長(昭38法)、坂本伴治校友会副会長があいさつし、活動報告が行われた。

フェニックスグリークラブ総会

11月23日、東京都中央区の「晴海トリトン」で。本部1人、会員80人が出席。

河本雄三氏(昭45経済、校友会総務部長)が司会。肥田英臣会長(昭40経済)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

『専修文芸』創刊号発刊

旧校友会誌「瑞雲」の制作に携わったメンバー有志の発案で企画が進められていた「専修文芸」創刊号がこのほど発刊された。

25人が創刊発起人に名を連ね、作家の松田征士氏(昭42法)と元専修大学職員の内山宏氏(昭41経済)が中心となって編集作業を進めた。

親睦・研鑽、次代への記録の伝達を目標に作品募集を行い、文芸作品のみならず、さまざまな分野の投稿が集まり、200ページを超える作品集となっている。

創刊号は生田キャンパス内のコンビニ「アップルマート」、神田キャンパスB1の「邦光堂」で取り扱い中。第2号の原稿は05年7月末が締め切り。在学生や育友からの投稿も大歓迎とのこと。お問い合わせは松田さん方へ。

グリークラブ『第40回定期演奏会』

「岬の墓」など全25曲を熱唱



男声合唱団グリークラブの「第40回定期演奏会」が11月23日、東京都中央区の「第一生命ホール」で開催された。写真。團伊玖磨作曲「岬の墓」など全25曲を合唱。同クラブのOB組織であるフェニックスグリークラブとのジョイントも行われ、430人の聴衆から惜しめない拍手が送られた。福原歩代表(経営3)は「部員たちが個性を出し合った。OBとの合唱も好評で、満足しています」と話した。

サーフライフセービング愛好会20周年

多くの世界選手権代表を輩出すると共に、各地の海岸で「海の安全」を守る活動を続けている、専修大学サーフライフセービング愛好会の20周年記念祝賀会が12月12日、東京・大森東急インで開かれ、OB・現役生など約100人が集った＝写真。

日高義博学長から心温まるメッセージが届き、来賓の池本正純学生部長が「社会的使命を全うしようとする真摯な姿に感銘した」と祝辞を述べると、代表の上之園友輔くん（経済2）は「悲しみに暮れる人を1人でも減らせるよう、常に社会的使命を意識して邁進します」と決意表明した。

日本の大学では初の組織として12人でスタート。初代部長は出牛正芳現理事長だった。300人を超える卒業生のほとんどが各地で貢献している。

専修人の新しい本

企業家とは何か 池本正純著

企業家という誰もがシュンペーターのイノベーション論を想起する。だが著者はその発想から脱却すべきだと説く。技術革新を企業家の役割と考える背景には、均衡が容易に達成されるという安易な想定がある。

そのような視点では、現代目まぐるしく変貌を遂げる商業や人材派遣業などのニュービジネスの役割、ベンチャーキャピタルや買収ファンドといった金融分野の企業家的側面が明らかにならない。企業家の真の役割は、不均衡を発見し、その解消を図ることにあるという視点に立って初めてそれが見えてくると本書は主張する（八千代出版・本体3000円＋税）。

著者（いけもと・まさずみ）＝経営学部教授。担当は企業の経済学。

茶の文化史 <全5巻> 島田 孝右監修

本書はイギリスで1800年以前に刊行された茶の記録集である。茶は、薬としての扱いかいからいわゆる「紅茶」として定着した。ショートの『茶に関する論考』、ケンペルの『日本誌』の付録、レツサム『茶の木』の博物誌を含む、待望の全集である。（ユーリカ・プレス、11万8000円＋税）

監修者（しまだ・たかう）＝商学部教授。担当は英語。編者・滝口明子（たきぐち・あきこ）＝東京外国語大学講師。

日本に生まれて 女性が考える日本国憲法 佐島直子ほか著

改憲議論の高まりの中で、各界で活躍する戦後生まれの女性が現実的多角的に実生活と憲法を語っている。改憲といえば「9条」という政治的潮流に抗して、24条（両性の平等）、25条（生存権の保障）、27条（勤労の権利）といった視点で憲法が語られ、改憲問題を身近にひきつけている。「不整序」で危うい議論の跳梁跋扈（ちょうりょうばつこ）に警鐘をならし、守るべきは「日本国憲法」の「法の支配」の大原則であることが改めて着目される。また、憲法前文のオリジナルな新訳（ハロラン英美子）が風景写真に添えて掲載されているのも楽しい。（阪急コミュニケーションズ・税込み1260円）

執筆者（さじま・なおこ）＝経済学部助教授。担当は英語。

【ニュース専修2005年1月号1面】